

筋ジストロフィー / 筋萎縮性側索硬化症 (II)

エドガー・ケイシー療法の示す
神経筋疾患の原因と治療法 (その2)

Sample

第14号の内容

- Encyclopedia of Healing から「筋萎縮性側索硬化症」の翻訳
- Physicians Reference Book から「筋萎縮性側索硬化症」の翻訳
- デイビット・アトキンソン氏インタビュー「ALSからの生還」
- リンダ・カプティ氏による手記「筋ジストロフィーからの復活」
- リーディング原文資料 (907-1)

編集・発行 NPO 法人日本エドガー・ケイシーセンター

はじめに

前号のニュースレター No.13 では、筋ジストロフィーならびに筋萎縮側索硬化症に関するエドガー・ケイシー療法の概要と、実際のリーディングをご紹介いたしました。

今回も引き続き筋ジストロフィーおよび筋萎縮性側索硬化症に関するエドガー・ケイシー療法のアプローチに関するレポートをまとめてみました。前号では筋ジストロフィーに関するレポートを中心にまとめましたが、今回は筋萎縮性側索硬化症を中心にまとめました。

特に、筋萎縮性側索硬化症をケイシー療法で克服されたデイビッド・アトキンソン氏の体験レポートと、筋ジストロフィーをケイシー療法で克服されたリンダ・カプティ氏の体験レポートはケイシー療法によってこれらの困難な疾病に取り組み始める方々に大きな勇気と希望をもたらしてくれるものと思います。

エドガー・ケイシーの遺した情報が、これらの難病に苦しむ方々の治癒に少しでもお役に立てますことを心より願っております。

2007年7月24日

日本エドガー・ケイシーセンター
光田 秀

第1章

筋萎縮性側索硬化症 (ALS) に対する ケイシー療法の概要

エドガー・ケイシー療法全書 (Encyclopedia on Healing) から筋萎縮性側索硬化症に関する部分を翻訳してみました。

筋萎縮性側索硬化症 (ALS) は神経組織および筋肉組織が変化していく進行性の疾患で、40代から60代に好発する。症状としては、多くの場合、手足（特に手）の筋肉が消耗し弱くなり、筋肉が徐々に萎縮して行く。発症後の平均余命は3年といわれる。

ALS に対するリーディングは1件のみだが、ALSの原因を、排泄不良や、化学成分のバランスが崩れたことで神経鞘が破壊されているといった一般的な原因に帰している。また、それらの原因の根底に感情、日常の心のあり方の問題も指摘された。

1.1 治療法および症例

ケイシーのリーディングにはALSの患者 [5019] に与えられたものが1件存在する。34歳の男性で、彼の症状はわずかに足を引きずることから始まった。彼の状態は徐々に悪化し、片方の腕が麻痺し始め、歩くときには杖が必要になってきた。ケイシーは彼の状態を診断し、体に金が不足していることが原因であると述べ、それが脊柱の神経鞘の栄養不足と衰弱を招いたとした。さらに、具体的な内容は示さなかったが、その根底にカルマの影響があるとした。

ケイシーは毎日30分間ウエットセルを使用することを勧めた。ウエットセルで使用する溶液はアトミダインと樟脳精を交互に使う。アトミダインを使用する時には、銅プレートは腰椎に装着し、樟脳精を使用するときは、銅プレートは腕中枢、つまり胸椎1番と2番または3番と4番の部位に装着するように指示された。

ウエットセルを使ったなら、その都度、ピーナッツオイルとラノリンを混ぜたオイルで

30 分から 45 分間マッサージする。ケイシーはさらに塩化金と臭化ナトリウムを蒸留水に溶かしたものを少量内服することを勧めた。でんぷんとアルコールは避けるべきものとされた。この患者は聖書を読むこと、特に出エジプト記 19 章 5 節と申命記 30 章を読むことを勧められた。

このケースについては追加レポートはない。

翻訳：光田 秀

Sample

第2章

筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の治療方法

ウィリアム・マクギャレー医学博士

2.1 生理学的考察

筋萎縮性側索硬化症は錐体路（運動ニューロンの遠心性神経で延髄の錐体を通る経路）および下位運動ニューロンの神経変性疾患と定義され、筋萎縮と線維性収縮による運動麻痺と痙攣が生じ、最終に延髄の神経核に障害が及ぶ。身体の運動系の疾病群の1つであり、原因は現代の医学においても未だに謎である。

参考になるリーディングは33歳の男性が1件あるのみだが、彼の状態は上記の定義によく一致していた。彼はゆっくりとしか歩くことができず、しかも歩行は不安定で、杖を必要とした。筋肉は収縮し、一方の腕は萎縮が始まっていた。

リーディングは、筋萎縮性側索硬化症に対して多発性硬化症とほとんど同様の治療を勧めており、またこれらの疾病の原因も類似している。

生理学的には、何らかの影響で、消化管からある特定の栄養素をうまく同化できなくなるようである。このリーディングでは、それらの第一的な原因については言及されていないが、明らかに、ケイシーが呼ぶところの「カルマ」と何か関係があると思われる。いずれにしろ、ケイシーは、同化不良が原因で、神経と筋肉の補充と再生に必要な材料が血流に不足すると見なしている。彼は、全身の細胞は常に再生されなければならないと考えている。筋肉の活動を支配している神経細胞もその例外ではない。ケイシーは、必要な要素がごく微量ながら長期間にわたって不足することで、疾病が顕在化すると見なしている。

多発性硬化症の場合、不足する元素は金である。つまり通常であれば消化管を通して同化されるはずの金が不足するということである。特にこれらのケースでケイシーが頻繁に